

奈良文化女子短期大学 幼小連携ワーキンググループ合同研究会
第 34 回 議事録

1. 日 時： 平成 24 年 3 月 24 日（土） 11:00～12:50
2. 場 所： 奈良文化女子短期大学 本館 5 階（第 1 演習室）
3. 参加者： 14 名
4. 内 容：

(1) はじめに

参加者 自己紹介

新規参加者：小田峰男（姫路市総合教育センター）

松元大昌（東京書籍）

学生参加者：1 回生：金本陽子

(2) 幼小連携資料及び実践から学ぶ

全国の幼小連携の実践資料等からミニ講演及び情報提供・情報交換

① □「接続ということ」 鳴門教育大学教職大学院 前田洋一 准教授

- ・なぜ子どもの学びと育ちをつなぐのか。
- ・「小1プロブレムの解決」では、子どもの育ちはつなげない。
- ・めざす子ども像（教育理念・教育観）の理解をする。
- ・カリキュラムを作ることが接続につながる。
- ・問題解決の基礎として言葉の力と自己調整学習（計画の段階 遂行の段階 自己省察の段階）が重要である。

② □岐阜県山県市 実践報告 山県市教育センター 大山夏生 主幹

- ・本研究会での学びを軸として実践した高富小での幼保小連携の取組を紹介。
- ・職員同士の互惠性のある双方向の取り組みが園児にとっては入学への憧れを、1 年生には自分への自信と気付きにつながった
- ・次年度もますますバージョンアップした取り組みを実践したい
- ・体験入学は生活科の授業として行い、準備に時間をかけないように心掛ける。

③ □「入学後の子どもの戸惑い」を解決する幼小接続カリキュラム

奈良文化女子短期大学 善野八千子 教授

- ・指導者側の授業不成立からではなく、学習者である子どもの「とまどい」に着目
- ・「小1プロブレム」解決でなく、「入学後の子どもの戸惑い」という視点から解決
- ・とまどい要因 6 項目「時間」「空間」「人」「モノ」「技能」「心情」から考察
- ・幼児期後期では、小学校の教育内容や生活内容に「興味・関心」をもたせる取組
- ・「一日体験入学から学校ごっこへ」の実践例の提示
- ・今後は、入学後の子どもの様子や実態調査が接続カリキュラムの検証が必要
- ・心情を重視した受容的関わりの保育から、規範を重視した指導的関わりの小学校への移行を、子どもの学びの意欲をつなぎながら支援することが大切
- ・幼小が教育内容を共有し理解しながら見通しをもって、幼小接続カリキュラムを不断に改善しながら、問題解決できる基礎力をしっかり育ていきたい。

(3) 協議

参加者の意見

- ・幼稚園で文字をどの程度に書かせるのがよいのか日頃悩んでいる。
- ・文字はどのように取り扱えばよいか。

助言

- ・「日常生活の中で、文字等で伝える喜びを味わわせる。」が幼稚園教育要領にあるまわがって書いていれば教えることも重要である。また、自然の活動の中で子どもが文字を知りたがった時に正しく教える。文字を教え込むのではない。
- ・「いつまで」「どのような能力」「どの程度」をどう捉えるか、タイミングを逃さずに保育者が意味づけをすることが大切である。

参加者の意見

- ・私学の幼稚園で協議中である。
- ・教えるわけではないけれど、環境の設定の必要性を感じた。
- ・学習指導要領は最低限と考えて現状を見ていくことが大切である。
- ・書きたい見たいときにその支援をしていく。
- ・同じ教材をどのようにあたえるか、わからない。

助言

- ・いろんな知識をもつと違うように見えてくる。それが教育である。
- ・幼稚園のときの問題解決を一年生のときには、違うストーリーで問題解決をすることができる。指導者が明確に整理し教えることをためらわない。

参加者の意見

- ・どのタイミングでどの授業を先生が考えなければならない。
- ・幼稚園では、文字を「なぞる」ことから始めている。小学校では、学校の中で指導観の違いがある。子どもの個に対応する指導に悩む。「自己省察」をどこへ組み込むか

助言

- ・子どもの発達には様々な違いがある。大きく捉えて指導計画を立て、評価の中で達していない子どもに補充的学習を丁寧にしていかねばならない。33人いるが、33通りは指導計画を立案できなというのではない。
- ・問題解決能力は、解いてみないとわからない。保育者が視点を与えないと子どもは振り返らない。問題解決能力と課題解決能力は違う。課題を見つけることが大切である。なぜ、問題を解決することが大事かを子どもの時に教えておくことが重要である。

5. 名称変更

本研究会は、2009年3月から「幼小接続期」のカリキュラムの作成を通して、取り組みを継続してきた。当初、「保幼小連携WG合同研究会」としたのは、保育園と幼稚園と小学校の子どもの育ちを学びをつなぐという目的であった。

その後、認定子ども園等の法制化により幼児教育の全てを「幼」と位置づけた。そこで、2010年度より小学校以降の教育への連続性・一貫性を研究する「幼小連携WG合同研究会」と変更した。また、現在「連携から接続へ」の流れの中で、本研究会は、設立当初から「接続」についての研究を深めてきたことから実態に対応して、2012年度より「幼小接続WG合同研究会」と名称を変更する。

6. 次回の予定 平成24年4月21日(土) 11:00~12:30

*毎月定例は、第3土曜 11:00~12:30